

木製スーパーカーが公道を走る!



「木で作った自動車があるよ」と言われても、それが公道を走る本格的なスーパーカーだなんて想像もつかないものですが、木材どころの岡山県真庭市にある業者が、地元産材を使った自動車を開発しました。

開発したのは岡山県の佐田建美で、自動車には地元市名の「真庭」をそのまま命名。エンジンには175CCを搭載し、曲線多用した車体は幅1.3メートル、長さ2.5メートル、高さ1.1メートル。金属でフレームを作り、ボディは堅く粘りのあるタモの合わせ材を使用。内装には地元産モミの木

と柾目のヒノキを使っています。ドアは上に開くスポーツタイプで、後輪二輪が駆動する三輪車のため定員は3人。ナンバーを取得、普通免許で運転できる本格派。

しかもナント、約390万円です。

佐田建美は車メーカーではなく、普段は家具や建具をつくられている家具製造販売業者。

しかし緑と木材に恵まれた日本でありながら、近年は家具や建具、建築が洋風化し、合板や鉄、コンクリートが多用されるようになり



ました。そんな中、意気消沈していたも仕方が無い、と「木でどこまでつくれるのか」木の、素材としての可能性を「木製スーパーカー」づくりを通して追求し「木でつくれない物はない」を合い言葉に、家具工場の木工職人が試行錯誤を重ねてつくり上げたのです。

後部座席にはヒノキの柾目板を使い、フロント部分に円形の組子細工、さらにボディ後部には武双窓と、木工職人の心意気と伝統技術が随所に見られる一味違ったスーパーカーが誕生した、というわけです。

この自動車を開発した佐田建美の佐田専務は、大日新聞記者に「木の産地、岡山県真庭市で生まれた木製スーパーカー「真庭」木で作れない物はない」を合言葉に試行錯誤し完成させ



ました。世界限定5台で販売中! (1台売れましたので、残り4台) ワクワクするような革新性のある製品を今後開発していきます!」と熱く語ってくれました。

物づくりの国と言われるこの日本には、夢を忘れない人がたくさんいるのですね。

全面を木で作った車なら、廃棄する時にも環境に優しく、これもエコカーと言えるでしょう。

株式会社 佐田建美
〒一九一三二五 岡山県真庭市中705

<http://www.koln32.jp>

ユニーク

街で見つけたエコグッズのご紹介

第1回は、太陽光エネルギーで繰り返し使える「ソーラー式携帯電話充電器」

その中でも特にユニークな名称の「ソラねこ」は、太陽光で内蔵バッテリーをフル充電しておいて、それから携帯電話を充電する装置。内蔵バッテリーからの急速充電により、携帯電話に20分程度の接続で約70%以上の充電ができるそうです。カラになった内蔵バッテリーへの電気の蓄電は無限のエネルギー太陽光でOK。繰り返し使えるという事です。

外出先で携帯電話のバッテリーが切れるとたちまち仕事にも支障が出ますし、特にコンビニなどが無い地方に出張の時は大変。使い捨ての乾電池充電器も売っているけれど、度々だと経費もかかりますから、こういう製品があるのは便利なのです。

2個購入すれば交代に使えるので自宅使用もすれば家計費の節約にもなるかもしれません。気になるのは製品の精度：携帯電話自体が精密機器ですから、携帯電話に保存したデータが消えたり不具合が出たりなど、相性が悪い場合もあるのでしょうか?



そういった不安が解消されると、一気に大ヒットとなるかもしれませんね。

(大日新聞では情報として市販のエコグッズをご紹介しますが、推奨品としてお薦めする製品ではありません。)

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

編集後記

創刊のご挨拶

環境を配慮した商品設計の基本

「人にやさしく、地球にやさしい。」
当社の製品開発の根幹をなす理念ですが、まだまだ、多くの皆様にそれぞれの商品の優れた特性をご理解いただけないと感じていました。できるだけ多くの皆様に、当社商品の持つやさしさを、よく理解をしていただきたいと思い、この度、新聞を創刊する事になりました。

環境に配慮した商品だと言っても、カタログだけで、一概にうまく全部を伝える事は難しいものがあります。施工時に作業者にやさしい商品もあります。また、ヒートアイランドの緩和に役立つ商品もあります。商品の容器がゴミになりにくいものもあります。基本は商品設計をする時に、あらゆる角度から環境を考慮して設計し、商品に仕上げるというスタイル、そのものが大切だと考えています。また、環境に配慮した商品というには、製造時、施工及び作業時、完成後、年月経過後、廃棄物としても、いずれの時も人や地球にやさしい商品でなければなりません。そういう配慮がどこまでできているかも、注目されるべき視点だと思っています。

20世紀はアスベストやPCBなど、長持ちするモノがよく使われまし

た。が、これらは、皮肉にも長持ちする事自体が人に危なく、長期に人体に蓄積し、多くの人災を引き起こしてきました。そのような危(あぶ)な優れモノを多く使用した、耐久性に優れているという一方的な価値だけを追求するモノづくりが主流でした。21世紀の循環型社会を目指したモノづくりは、まず、人や環境にやさしく、その上で耐久性に優れているという二元的な価値を有し、どの部分から最初に壊れて、いつ頃、どうメンテナンスするかを設計に織り込んだ商品開発が求められる時代になってきました。

当社のそれぞれの商品がどのような理念に基づいて商品設計されたか、また、できなかつたかを多くの皆様にご理解を頂き、カタログに書き込めない商品設計の苦労など知っていただければ幸いです。

次回もご期待下さい。



大日化成株式会社 代表取締役社長 小林 知義

次号も
お楽しみに!



URL: <http://www.dainichikasei.co.jp>

DAINICHI CHEMICAL CO.,LTD.

●本社
〒571-0030 大阪府門真市末広町 8-13
TEL: 06-6909-6755(代) / FAX: 06-6909-6702

●東京営業所
〒105-0013 東京都港区浜松町 1-2-11
TEL: 03-3436-3801(代) / FAX: 03-3436-3803